

錠剤の粉碎からOD錠に変更になった胃ろう患者

薬剤師のアプローチ	胃ろう患者さんの処方において、普通錠の粉碎指示があったが長期処方であり保管が困難、さらに経管チューブが詰まる恐れがあり、処方元と相談し口腔内崩壊（OD）錠に変更となった。OD錠がない品目については、簡易懸濁法を提案した。
回避した不利益	錠剤粉碎による調剤ロスからくる効果低下 経管チューブの詰まり
患者情報	施設に入所。施設職員が代理で来局。
原疾患/既往歴	高血圧、心臓病、胆石、躁鬱、認知症。 胃ろうを造設したばかり。
処方情報	フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg 2錠 →疑義照会で粉碎指示を削除し、 簡易懸濁法のデータが豊富なメーカーのOD錠に変更。 ベルソムラ錠 15mg 1錠←簡易懸濁法を提案。
概要	胃ろうの患者さんに粉碎指示の処方。長期処方の場合、粉碎すると品質劣化の懸念がある。また、調剤ロスも否定できない。各医薬品メーカーに問い合わせ、経管チューブに詰まらないことを確認した。処方元に疑義照会を行うとともに簡易懸濁法のデータをフィードバックし、OD錠に変更となった。その後、患者さんが問題なく経管投与できていることも確認した。
まとめ	胃ろうの患者さんに最も適した服用方法で処方してもらえるよう、処方元に疑義照会して変更になった事例です。飲み込むことが難しい患者さんや、胃ろうの患者さんに錠剤が粉碎指示で処方されることは少なくありません。処方箋通り調剤するだけでなく、患者さんご自身と、介助者が服用しやすくなるような剤型を選択し、服用方法を提案させていただきます。